

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	57	博物館友の会の推進					
章	2	ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち					
大項目	02	個性ある地域文化づくり					
施策	02	文化資源の保護と文化環境づくりの推進					
事業内容							
目的	博物館友の会を推進し、区の歴史や文化を調査・研究する自主的活動を支援することにより、郷土の歴史・文化に対する理解及び地域文化の向上を図るとともに、博物館運営への参加と協働を推進することで、より親しまれる博物館を実現します。						
対象・手段	区内小・中学生を対象にしたこども友の会と、区民及び区外の来館者を対象とした一般友の会の事業を推進します。 林芙美子記念館と新宿歴史博物館に博物館の解説及び史跡案内を内容とする博物館ボランティアを導入します。						
成果(事業が意図する成果)							
参加・協働型の博物館経営による区民に親しまれる博物館が実現できます。							
事業成果指標							
指標名		定義			目標水準		
一般友の会会員登録数		一般友の会登録状況			(平成19年度に 160人)の水準達成		
博物館ボランティアの活動状況		ボランティア活動件数			(平成19年度に 400件)の水準達成		
					()年度に ()の水準達成		
成果の達成状況							
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
事業成果指標	目標値 1	人	0.00	0.00	160.00	160.00	
	実績 1	人	0.00	0.00	206.00	241.00	
	= /	%	0.00	0.00	128.75	150.62	
	目標値 2	件	0.00	0.00	400.00	400.00	
	実績 2	件	0.00	0.00	148.00	490.00	
	= /	%	0.00	0.00	37.00	122.50	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成17年度	こども友の会の運営 一般友の会の運営 ボランティア講座の実施 林芙美子記念館解説ボランティアの登録(19名)及び活用(148件)						
平成18年度	こども友の会の運営 一般友の会の運営 ボランティア講座の実施 新宿歴史博物館及び林芙美子記念館の解説ボランティアの登録(97名)及び活用(490件)						

部名称		教育委員会事務局		課名称		生涯学習振興課	
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	70	738	712	542	
	人件費	千円	6,548	6,548	6,548	6,820	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	6,618	7,286	7,260	7,362	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	6,618	7,286	7,260	7,362	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	6,518	7,186	7,028	7,095	
	特定財源		100	100	232	267	
	一般財源投入率 /	%	98.49	98.63	96.80	96.37	
職員	常勤職員	人	0.50	0.50	0.50	0.50	
	非常勤職員		1.00	1.00	1.00	1.00	
事業に関する検討課題							
<p>平成18年度末現在、一般博物館友の会241人、博物館ボランティア登録者97人となりました。今後はボランティアの活用方法の工夫と、自主グループ活動の支援の仕組みを明確にしていく必要があります。</p>							
評価基準に基づく評価と理由 「3.2.1」の3段階評価です。	達成度	3	友の会の交流会やボランティア養成とその活動も進行し、参加・協働型の歴史博物館運営への環境整備が着実に進んでいます。				
	効率性	2	経費負担に関し、教育的見地から参加料等はとらないもの、受益と負担の均衡化を図り会費を徴収するものと、事業目的により差別化を図っており、適正化に努めています。				
	実施の成果	2	こども友の会、一般友の会の推進により、親しまれる博物館の実現に向け、自主グループの育成と、これと協働するための環境整備が進んでいます。				
	行政の関与	3	新宿の歴史や文化を次世代に継承していくことは、今後とも区が担っていくべき責務であり、これを区民の生涯学習活動と、区の歴史文化の充実と発展につなげていくことができます。				
	妥当性	2	友の会、博物館ボランティア結成にとどまることなく、博物館運営に対する継続的な協働のパートナー育成のため工夫をしています。				
	施策寄与度	2	こども友の会、一般友の会の推進により、参加・協働型の博物館運営の推進が期待できます。また、次世代に郷土の歴史・文化を継承・発展させていくことが期待できます。				
総合評価	一般友の会は、特典付与と情報提供中心のメンバーズ倶楽部により、18年度末の登録者が241人となり、継続的利用者の増加が図られています。会員の交流会やボランティアの養成と活動を通して、継続的な協働のパートナーとしての位置づけが確立されてきています。博物館ボランティアの登録者は97人、活用は490件と大幅に増加して、参加・協働型の博物館運営の環境整備が着実に進んでいます。						B 過年度評価 17年度 B 16年度 B 15年度 14年度
							方向性
改革方針	今後もボランティアの活用範囲を博物館全体に広げるとともに、友の会事業を博物館の本来業務として位置づけ、自主グループ活動を支援することで、参加・協働型博物館運営を目指します。						1 現状のまま継続